

PAT-NO: JP 361123390A

DOCUMENT IDENTIFIER JP 61123390 A

TITLE: DIAPHRAGM OF SQUARE TYPE
SPEAKER

PUBN-DATE: June 11, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HIYOUKI, KAZUNARI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

N/A

APPL-NO: JP 59244975

APPL-DATE: November 20, 1984

INVENTOR: HIYOUKI, KAZUNARI

ABSTRACT:

PURPOSE: To make easy the decision of the position to be stucked and to reduce the unit cost of the parts by making the peripheral part of cone surface in a circular truncated cone into a flat rectangle and to stick an edge on its peripheral part.

CONSTITUTION: A square flat part 2 is provided on the peripheral part of the cone surface 1 of the circular truncated cone. An edge 3 is stucked on the square cone surface having a collation 4 as a on a square flat corner reinforced **rib** to form a **diaphragm**. Thus, expenses of metallic and the unit cost of the parts are reduced.

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-123390

⑮ Int. Cl.⁴

H 04 R 7/12

識別記号

庁内整理番号

Z-7205-5D

⑬ 公開 昭和61年(1986)6月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 角形スピーカの振動板

⑰ 特 願 昭59-244975

⑱ 出 願 昭59(1984)11月20日

⑲ 発 明 者 表 木 一 成 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

㉑ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

角形スピーカの振動板

2. 特許請求の範囲

角形構造の振動板として、コーンネック部より円錐状の構造をなし、コーン周辺部に角形の平面部を設けるとともに、その角形の平面部コーナにコルゲーションを設けて補強した角形コーン面に環状をなすエッジを貼り合せてなる角形スピーカの振動板。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、一般音響機器に適用される角形スピーカの振動板に関するものである。

従来の技術

従来この種の角形振動板は、第4図、第5図a、bのような構造になっていた。すなわち、コーン面BはO-B断面部コーンのアールの大きさと、O-C断面部コーンのアールの大きさが異なった角形コーン面に環状エッジを貼り合せた角形コー

ンの振動板であった。

発明が解決しようとする問題点

ところが前者の振動板の構成であると、コーン面Bを作るには、コーン面のアールの大きさがO-BよりO-Cまでの45°間で違ってくる為、金型費が高くなり、又コーン周辺部とエッジ部の貼り合せ時の位置ぎめが困難であり、コーン貼り合に時間がかかり部品単価が高くなるという問題があった。

そこで本発明の振動板は、一般円錐状のコーン面周辺部を平面角形にし、その周辺にエッジを貼り合せ時に円と角の2ヶ所の平面部で位置ぎめ出来る為、貼り合せ時間を短縮することが出来、安価な角形コーンの振動板を提供することが出来る。

問題^とを解決する為の手段

この問題点を解決するために本発明の振動板は、コーンネック部より円錐状の構造をなし、コーン周辺部に角形の平面部を設けるとともに、角平面部コーナにコルゲーションを設けて補強した角形コーン面にエッジを接合するものである。

作 用

一般円錐状のコーン面周辺部を平面角形にし、その周辺にエッジを貼り合わせるにより、安価な角形コーンの振動板を提供できる。

実 施 例

以下本発明の一実施例におけるスピーカの振動板について説明する。第1図、第2図、第3図に示すように、円錐状コーン面1の円周辺部に角形の平面部2を設け、その角平面部コーナにコルゲーション4を補強リブとした角形コーン面にエッジ3を貼り合せてなるものである。

発明の効果

以上のように本発明は、一般円錐状コーン面の周辺部に角形の平面部を設け、さらに、角平面部コーナ部にコルゲーションを入れて補強した角形コーン面にエッジを貼り合せてなる角形スピーカの振動板により、金型費及び部品単価が安価にすることが出来る。

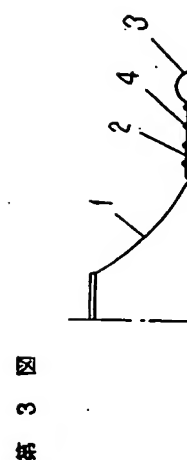
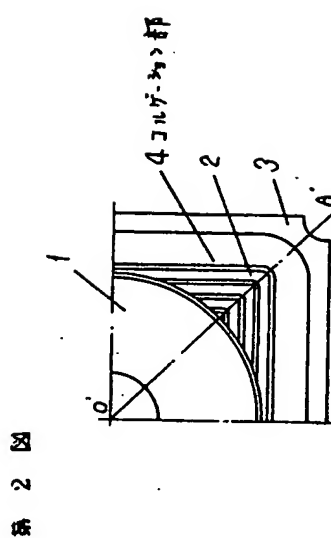
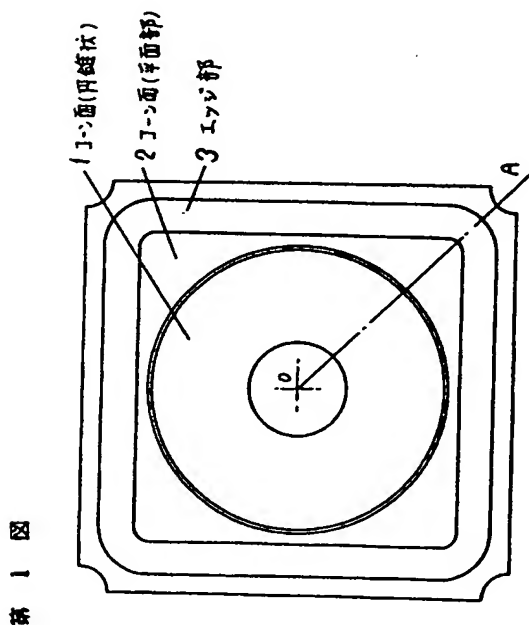
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における角形スピー

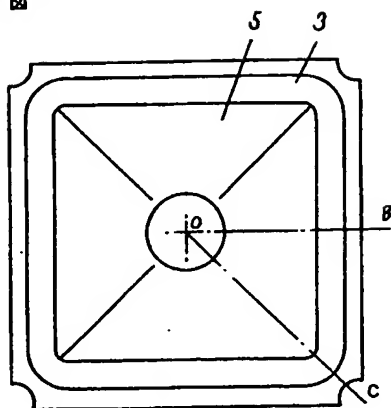
カの平面図、第2図は同要部裏面図、第3図は同O-A断面図、第4図は従来の角形スピーカの平面図、第5図aは同O-B断面図、第6図bは同O-C断面図である。

1……コーン面(円錐状)、2……コーン面(平面部)、3……エッジ部、4……コルゲーション部、5……コーン(角形)。

代理人の氏名 井理士 中 尾 敏 男 ほか1名



第 4 図



第 5 図

